

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 みると		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 5日		2026年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2026年 2月 5日		2026年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個人情報管理の点。	児童の個人情報に関しては、名前、写真など保護者にお伝えや報告をする際も留意している。 また、リトムや実績などの入れ間違いなどを防ぐため、送迎者、フロアの職員でダブルチェックを行なっている。	引き続き個人情報に留意しながら、正しく保護者の方へのご報告や伝達事項を伝える手段を継続する。
2	児童への特性に応じた対応や安心感を持って児童が通所してくださっている点	環境の変化や個人差、特性に寄り添い個々での関わりを変えて行なっているため、安心した環境作りにつながっていると思われる。	児童一人ひとりに寄り添う関わりを継続しながら、安心して楽しく通所し、より良い支援になるよう努めたい。
3	保護者の方とのコミュニケーションや丁寧な説明ができていない点。	支援方法や方針、今の現状などを送迎時などにこまめに伝えるようにしている。その中で悩み事や相談なども受け、職員と共有し、必要に応じて専門的視点での助言や回答を行なっている。	保護者の方との連携や不信感などは少ないと感じるので、こまめなご報告や連絡事項をその都度送迎時、またはLINEでご連絡をする。また、家庭支援なども積極的に取り入れていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園や幼稚園などの連携が取りづらい点。	実際に送迎に行った際にその場のスタッフさんとその日の児童の体調や情緒面を一言二言引き継ぎをするのみになっており、ケース会議や他施設との情報交換や方針のすり合わせがなかなかできていないためだと考えられる。	受身体制ではなく、積極的に自事業所からケース会議や交流の場を設ける試みを行う。また、それに対して保護者の方の意見やご家庭での様子なども加味した上で個別支援計画や今後の支援に反映させていきたい。地域でのイベントや催しにも積極的に参加して交流を深める。
2	保護者同士の交流の機会が少ない点。	毎日、学校から自宅などの往復が多いため、保護者同士が顔を合わせるタイミングが少ない。親子参加型のイベントも行ったが、事業所対1保護者になることがほとんどだったので、交流がほとんどなくコミュニケーションも取りづらそうだった。	子ども主体以外にも保護者様主体のペアレントトレーニングや講習会、相談会なども開催して、意見交換や相談の窓口につながる取り組みを増やしていく。
3	災害時の対応について。	年2回避難訓練を実施しているが、大々的に行っておらず、保護者様の耳には入りにくい。何をしているのかも説明不足で、避難経路や避難場所のお伝えも不明瞭である。	こちらの側の作業にならず、地域の避難場所や実際にお世話になる近隣住民な方に声掛けなどを行い、地域、事業所どちらも連携が取れるようにしていきたい。